

ソアヴェを名乗る前にソアヴェの土地を表現するべき

SOAVE | VENETO

Filippi

フィリッピ



### ▲スカリジェリ家の末裔

『私はソアヴェ・クラシコを生産地としてだけ認識しています。決して、ワイン造りのルールや、その味わい、スタイルとして認識してはいないのです。私はソアヴェ・クラシコで、土地の味がする私の土地のワインを造っているのです』

歴史ある生産者が多いソアヴェ・クラシコの中で、孤高の存在がフィリッピ。生産量は少なく、イタリア国内でも長い友好関係のある一部のレストランでしか見かける事はありません。日本への輸出もほぼありませんでした。

トスカーナの貴族、コンテ・アルベルティ（スカリジェリ家）が1300年代に、ソアヴェに移住。1260～1390年までヴェローナ周辺を支配します。フィリッピのカンティーナは、このスカリゲル家が所有していた元要塞で、スカリジェリ丘の頂上に建てられています。

20世紀初頭に親戚のヴィスコ家に売却され、フィリッピの母方の祖母が葡萄栽培を開始します。フィリッピはスカリジェリ家の末裔にあたるのです。先々代まではワインを造っていましたが、祖父が急死した事で葡萄栽培農家となっていました。

14世紀から続く、素晴らしい畑が荒れていくのを見かねたフィリッピは農学を学び、2003年に葡萄畑とカンティーナを相続。ワイン造りを開始します。当初からビオディナミを採用。2007年には全ての畑で有機認証を得ています。

### ▲酸より重要なものがある

畑はソアヴェ村から5km北上したカステルチェリーノ村に位置します。標高は320～490mというソアヴェ・クラシコで最も高い位置にあります。火山影響の典型的な黒色火山岩土壌で、下層部には玄武岩と石灰岩盤が混じっています。

16haの葡萄畑はモザイク状に散らばっていて、その間には22haの森が残されています。生物多様性を維持する為に全ての畑が森に隣接されているのです。丘1つを所有していて、天然の井戸には野生動物が集まり、ソアヴェとは思えない光景。

仕立は、ほぼ全てベルゴラ仕立。新梢は切らず、自然と伸ばされ2mの高さで巻き付けられます。南側の葉は残され、影を作って葡萄果実を強過ぎる太陽から守ります。グイも試しましたが、ガルガネガは単調で複雑性を失うようでした。

『ガルガネガという品種は、この土地のミネラル感を表現するのに最適な品種です。健全な果実と花の香。力強い塩味がソアヴェの土地の味です。酸味は重要ではありません。早く摘んで酸味を得ても土地の味が無ければワインではないのです』

### ▲葡萄にエネルギーがあれば、それで良い

フィリッピでは、区画毎の個性を活かす為、基本的に単一畑、単一品種でワインを仕込みます。カステルチェリーノは火山起源の黒色火山岩土壌主体。モンテセローニは石灰岩が強く出ている土壌。ヴィーニュー・デル・ブラは玄武岩質の強い粘土質土壌が特徴。

区画毎に成熟スピードが異なるので、葡萄を食べて確認しながら、家族と友人のみで収穫。収穫は12kg用のカゴを使いますが、半分までしか入れず、葡萄が潰れないように細心の注意を払います。

朝方、寒い内に収穫し、優しくプレス。少しモストが漏れ出している状態から発酵開始。発酵は野生酵母のみで温度管理もなし。その年の収穫時の温度もテロワールであり、その年の個性と考えるので温度管理してはいけなないと考えます。

発酵終了後、良質の澱だけ残し、20ヶ月以上のシュール・リー熟成を行い、ワインはエネルギーを増していきます。醸造段階の酸化防止剤は無添加。フィルターなしでボトリング。必要であればボトリング時に極少量の亜硫酸を添加します。



メルマガ&LINE  
限定品予約や入港案内、試飲会やセミナー等を御案内！



生産者紹介カタログ&最新在庫表  
実際に現地を訪れ、畑を歩き、カンティーナで触り、造り手と話して学んだ事、感じた事をまとめました。最新在庫表は、できるだけ毎日更新！

